

持続可能な地方公共交通の取り組み ～広島地区のチャレンジ～

広島電鉄株式会社

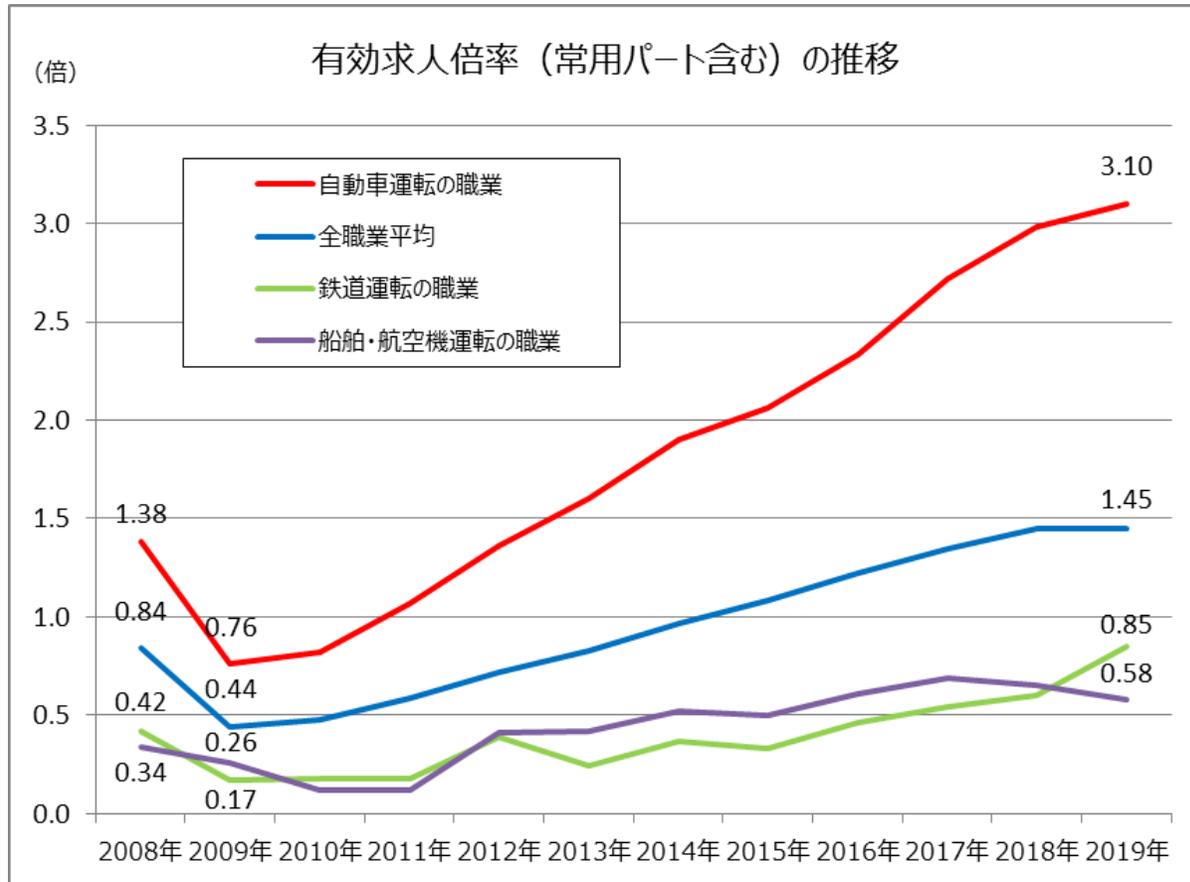
代表取締役専務 交通政策本部担当 仮井 康裕

運転士不足

自動車運転の職業の有効求人倍率※は、リーマンショック前の2008年における1.38倍から、2019年には3.10倍と大幅な上昇を見せています。また大型二種免許保有者数は大幅に減少するとともに、バス運転手の高齢化が顕著。

※有効求人倍率・・・企業からの求人数（有効求人数）を、公共職業安定所に登録している求職者（有効求職者数）で割った値

出典：厚労省「職業別一般職業紹介状況」



出典：厚労省「賃金構造基本統計調査」、警察庁「運転免許統計」



持続可能な公共交通に向けて

2022年11月 広島市内中心部の均一運賃化

広島市中心部を運行する7社で共同経営の協定を締結し、対象区域内で完結する路線バス及び路面電車（白島線除く）の運賃を220円均一に変更し、交通モード関係なく利用しやすい環境に。



- 路線バス
- 電車市内線（点線：白島線）
- 220円均一運賃エリアの境となるバス停
- 190円均一運賃エリア（現行）
- 220円均一運賃エリア

2025年春（予定） 広島駅前大橋ルート供用開始

広島駅南口広場の再整備等事業として、2020年12月に工事着手し、計画通り工事進行中。未来の広島のみちづくりに大きく寄与する。



持続可能な公共交通に向けて

運行管理の集中化

ICT技術を複合的に活用して運行管理の集中化を図り、安全性を維持・向上させつつ、効率化・生産性の向上を図る

様々なデジタル
ツールを導入

業務フロー・体制
の抜本的な見直し

バックオフィス等
の業務効率化

旅客サービス・
安全性の維持向上

地域交通デザイン会社構想

【目的】

民間交通事業者のノウハウを生かして
地域公共交通の運行計画などを策定するとともに、
後方業務を一括して行うことで、業務の標準化及び
経費削減につなげ、持続可能な地域公共交通の実現を目指す。

【業務内容】

下記の業務を行政、交通事業者から請け負うことを想定。

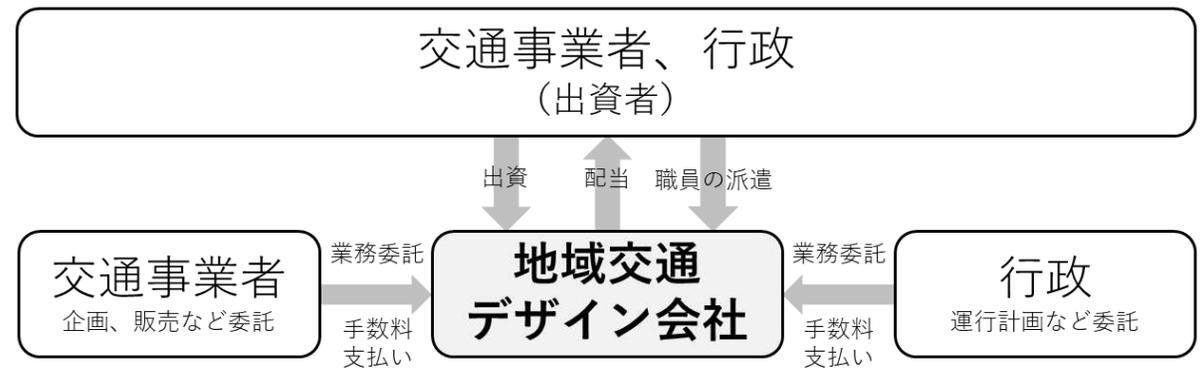
行政 ⇒ 地域における交通のグランドデザインを描く、
コンサルティング業務

交通事業者 ⇒ 企画、販売、問合せ業務など

●イメージ



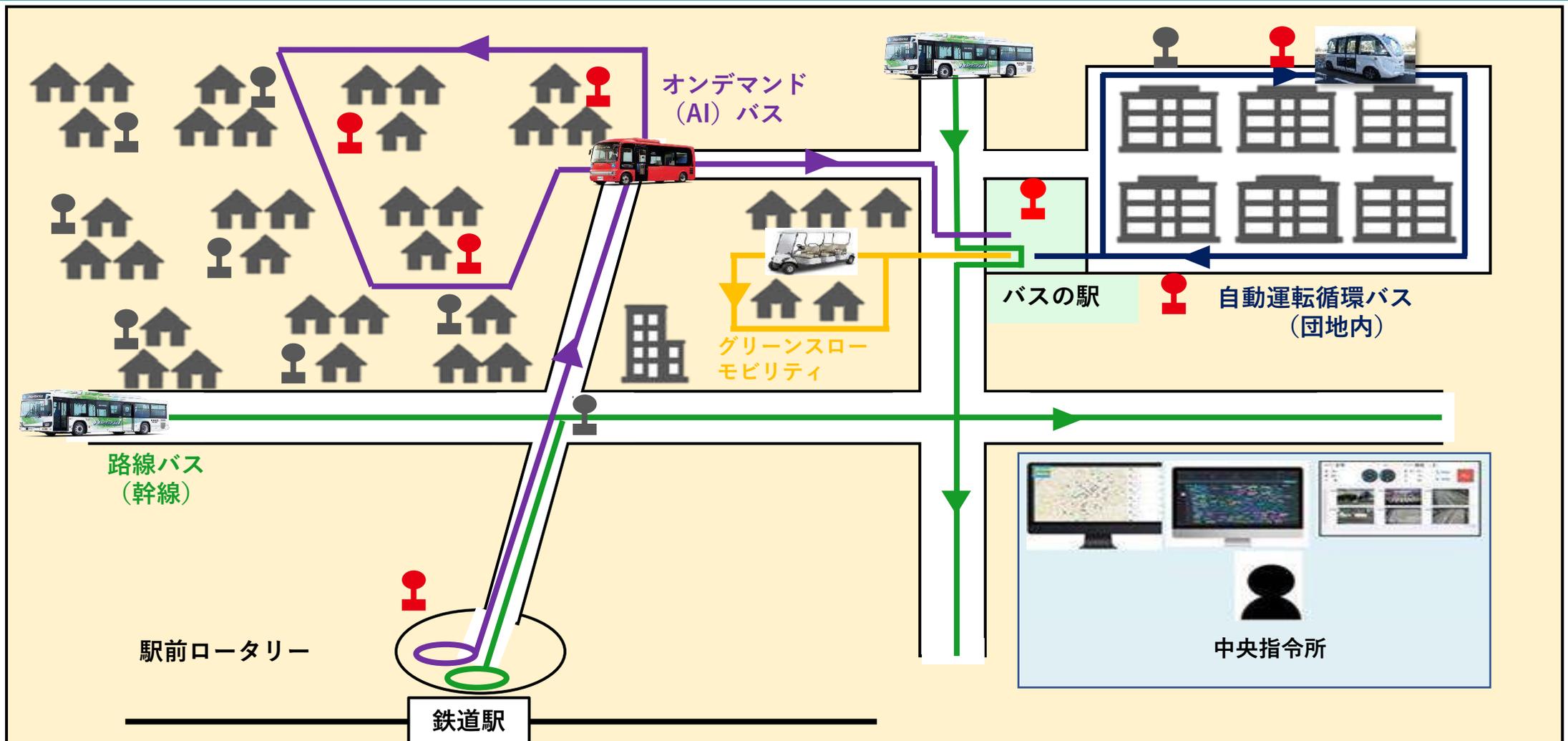
●イメージ



持続可能な公共交通に向けて

目指す姿

地域交通デザイン会社により交通モードの枠を超えた交通網を構築し、新乗車券システムを用いた柔軟な運賃施策で運行。運行管理は中央指令所にて行う。



持続可能な公共交通に向けて

まちづくりへの挑戦と移動機会の創出

旧広島市民球場跡地、中央公園広場エリアのPark-PFI事業などのまちづくりに関する事業へ積極的に参加し、地域の活性化、交流人口の拡大、回遊性の向上、移動機会を創出できるまちづくりを目指す

旧広島市民球場跡地整備等事業



旧広島市民球場跡地整備等事業
2023年3月 供用開始

中央公園広場エリア等整備・管理運営事業



中央公園広場エリア等整備・管理運営事業
2024年8月 供用開始予定